

観光DXを推進するための実践のポイント

1.観光DX事業とは



旅行者の消費拡大、再来訪促進、観光産業の収益・生産性向上等を図り、稼ぐ地域創出に向けて観光分野のDXを推進しています。

R6年度

観光DX推進の検討の柱に一体的に取り組み、旅行者の体験価値を 抜本的に向上させることによる「稼げる地域」につながる先進モデ ルの創出

R5年度

観光DX推進の検討の柱にそれぞれ取り組み、地域間・事業者間でのデータ連携による観光産業全体が最適化された先進モデルの創出

R4年度

デジタル技術を開発又は活用し、**好循環な収益構造の実現による観光地経営の改善 につながる新たなモデル創出**

R3年度

観光分野におけるデジタル技術の導入やDXの推進による、**新たな観光コンテンツの**
 造成やエリアマネジメントのモデルを創出

2.観光DX事業に取り組んだ地域



R6年度は6地域が採択され、「**稼げる地域」につながる先進モデルの創出**に向けて取組を行いました。

<R6年度事業>



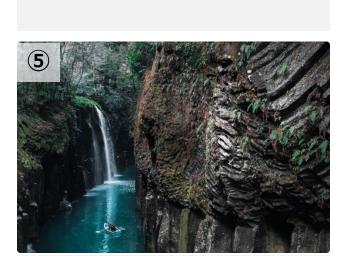
北陸インバウンド観光DX推進 事業 (富山県、石川県、福井県)



広島県観光DX推進事業 (広島県)



「**蹴球都市」藤枝のDXによる 生産性向上事業** (静岡県藤枝市)



わくわく観光プロジェクト〜 九州DXアイランド構想〜 (福岡県・佐賀県・長崎県・ 熊本県・大分県・宮崎県・鹿

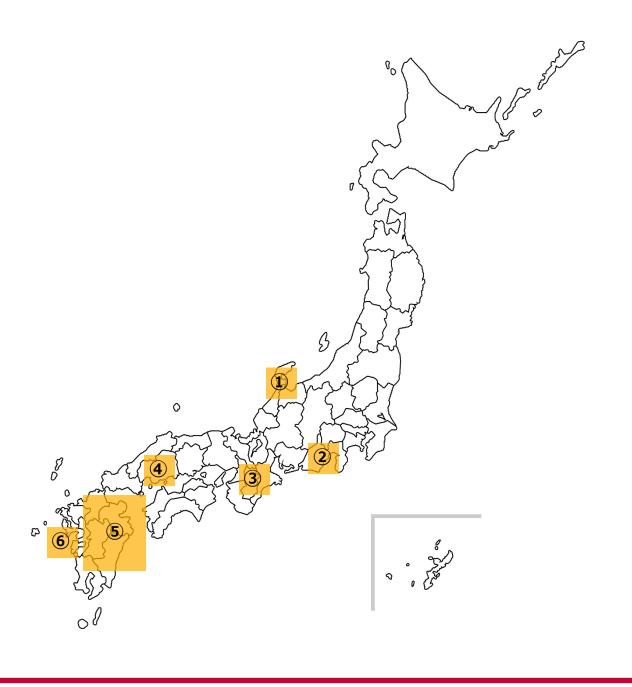
児島県)



「奈良観光DXPF」による周遊 及び地域経済循環促進事業 (奈良県)



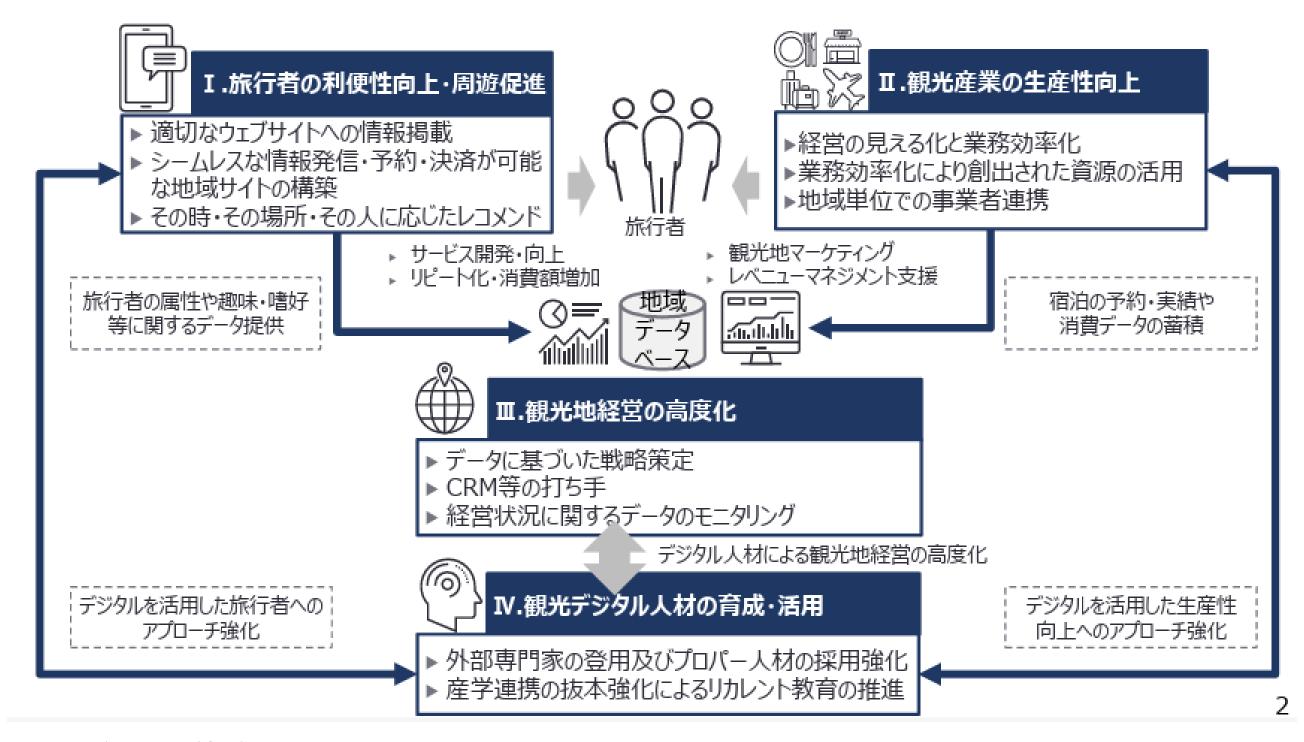
雲仙市観光全域データオープン化活用事業 (長崎県雲仙市)



3.R6実証事業について



観光DX推進の4本柱への一体的な取組



出典:観光DX検討会

3.R6実証事業について



プロジェクト体制と進め方

計画

実行

<プロジェクト体制>

く進め方>



• 事業計画作成

● KGI、KPI設定

• 事業計画に基づく取組実施

● 成果最大化に向けた取組の磨き上げ

• 成果取りまとめ

• 次年度に向けた検討

3. R6実証事業について



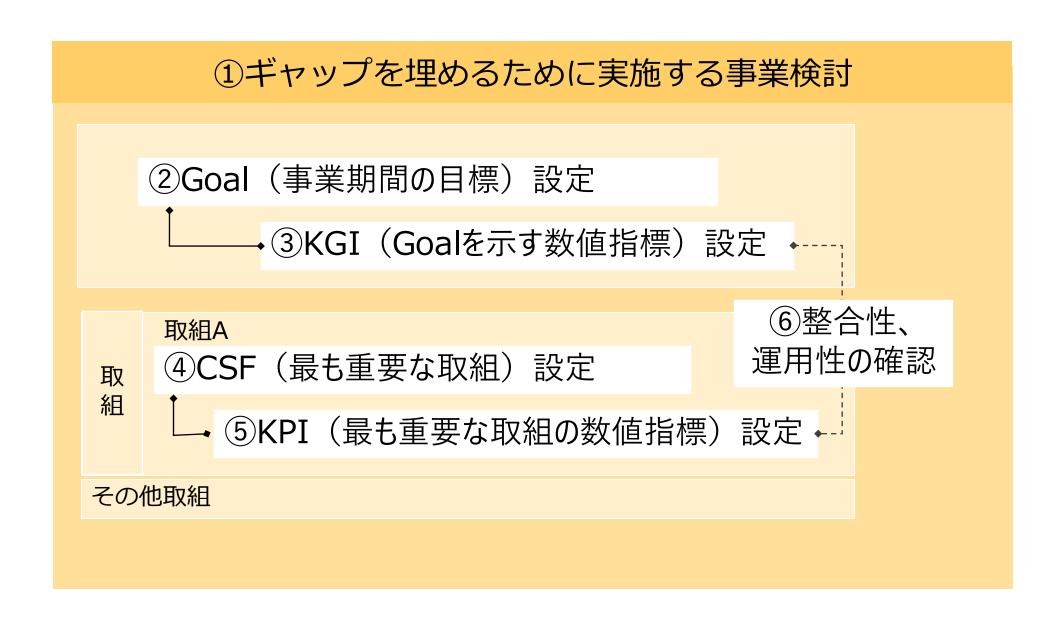
プロジェクト体制と進め方

<目標設定のステップ>

中長期的に目指す姿



地域の現状



4.観光DXの実践のポイント





地域によるデータに基づいた戦略策定

目指す姿「稼ぐ地域」



地域の現状

戦略の策定

- 1.課題解決策の検討
 - ・地域の想い
 - 経験からの課題抽出



データによる事実

※旅行者の属性/行動

2.取組の準備

ターゲットの 明確化 コンテンツの 決定 コンソーシアム の形成

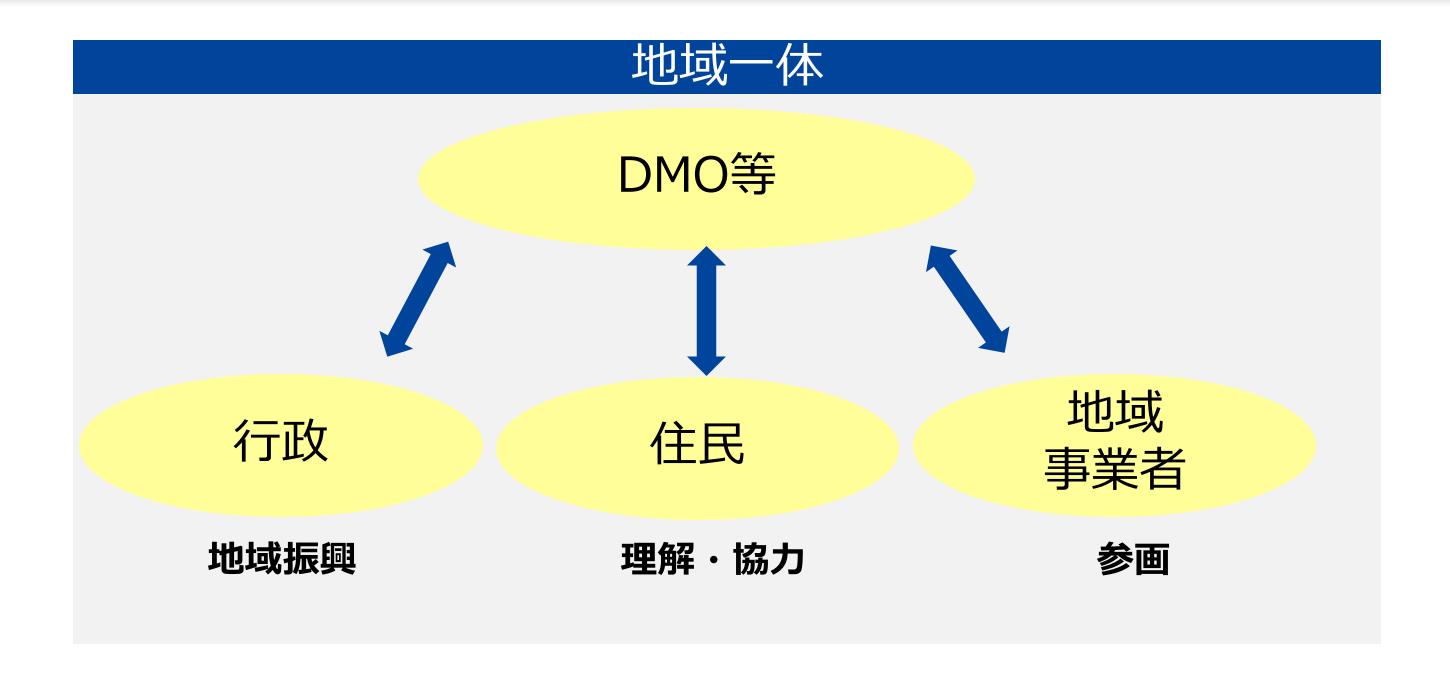
• •

4.観光DXの実践のポイント



2

地域内の合意形成

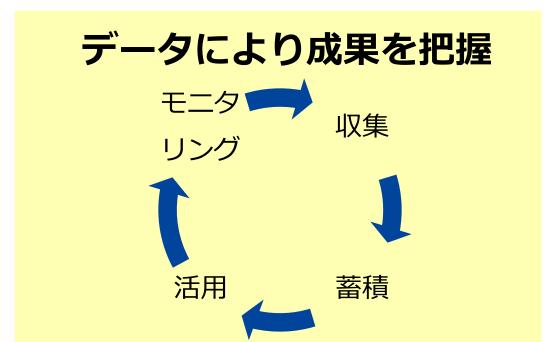


4.観光DXの実践のポイント



3 目指す姿に向けたプロジェクト推進





5.R6実証事業取組紹介



TIME	事業者名	ポイント
13:20~ 14:00	藤枝ICTコンソーシアム	データを活用した事業者からの戦略的な情報発信による地域消費拡大
14:00~ 14:40	九州観光DXコンソーシアム	生成AIレコメンド機能を活用した広域周遊の促進
14:50~ 15:30	雲仙市観光データオープン協議会	地域サイトを活用した情報発信・販売の強化や地域一体でのデータ活用による雲仙エリアの消費の最大化
15:30~ 16:10	広島県観光DX推進協議会	OTA等のデジタルツールの活用による観光施設の生産性向上や、 旅行者の利便性向上・周遊促進に取り組み、県全域での消費拡大
16:20~ 17:00	「なら観光DXPF」実装チーム	地域金融機関と連携した事業者の地域サイト参画支援、掲載商 品の販売促進を行うことによる事業者の収益・生産性向上
17:00~ 17:40	北陸インバウンド観光DX・データ コンソーシアム	北陸3県で連携したインバウンド旅行者のデータ収集・オープ ンデータ化、当該データを活用した施策検討